

第7試合 慶應義塾高校 対 法政二高

1Q

慶応センターパスで試合開始、2分慶応が右から左へのミドルパスからシュートチャンスも、8番が空振り。慶応がショートパスを中心にペースを握る。10分、慶応14番が右から左にクロスドリブル、再び右の慶応7番にスルーパス、これを決めて慶応先制する。

直後に法政が反撃、法政8番が慶応の守備の隙間を縫ってドリブルからシュートで同点。ここから法政10番、17番の個人技が冴え、12分、法政17番からの裏へのパスを法政4番が反応、慶応キーパーたまらず引っかけたPS。これを決めて法政が逆転

15分+、慶応が右から左にクロスドリブルから、上手くパスでサークルインからPCもこれを決められず。

2Q

法政は縦のくさびと慶応も縦への早い攻撃で、一進一退

23分、慶応がゴール前チャンスを作りシュートもわずかに枠をそれる。27分、法政8番から9番にスルーパス、たまらず引っかけたPS。しかし、これはポストに嫌われ、法政突き放せない。2Q残りわずから両チーム、足が止まりはじめる。

3Q

攻守の切り替えに中盤がお互いついて行けず、攻めあいとなる。立ち上がり慶応PCも決めきれず、法政右からのセンタリングからシュートも慶応キーパーナイスセーブ。交代の多い慶応が優勢に進めて、連続でショートカウンターも、サークル内の精度を欠く。40分から45分は、慶応が中盤の丁寧なつなぎで慶応6番が幾度も攻め上がり、ペース握るが、最後の精度が上がらず追いつけない。

4Q

交代の少ない法政にかなり疲れが見える。ここまで頑張ってきた法政10番が足をつり退場。しかし、法政のキャプテン9番が、この苦境を頑張る。慶応のワイドをさせないように、一方法政の中盤の丁寧なパス回しの起点となり、攻守に活躍する。法政17番、右からのセンタリングを慶応我慢できずPCに。これを法政9番が決め、ついに法政が突き放す。しかし、残り5分で慶応が数度のショートカウンターチャンスも、慶応、サークル付近及び中の精度が最後まで上がらず、最後は危なげなく法政が逃げ切る。

結果、粘り強くパスつなぎを頑張った法政が、サークル内精度を最後まで欠いた慶応に3-1で勝利した。